



情報収集衛星に係る経費の
平成28年度第二次補正予算及び
平成29年度予算概算要求

内閣衛星情報センター

1. 平成28年度第二次補正予算の概要

8月に閣議決定された「未来への投資を実現する経済対策」を受けて、危機管理への対応強化として情報収集衛星の能力強化を図る。情報収集衛星の確実な開発・打上げを行うとともに体制を着実に強化するため、以下のような予算を計上

- (1) 情報収集衛星光学7号機及びデータ中継衛星の開発に必要な部品・材料等の早期調達を行い、製作・試験を可能な限り早期に実施することで、開発工程における重要な品質の問題等を早期に把握・解決し、工程の遅延リスクを低減する。
- (2) 打上げ用ロケット（光学7号機、レーダ6号機、データ中継衛星）の製造・検査工程の前倒しを実施し、検査工程の時間を十分に確保することで、検査体制を強化し、確実なロケットの打上げを行う。
- (3) GEOINT基盤の整備のため、位置情報を正確に把握する高精細DEM※の導入やテロ対策用等の人文地理データを先行的に取得し、内閣衛星情報センターの分析に資するとともに、同データを省庁間でも共有する。

※ DEM(Digital Elevation Model) : 数値標高モデル。コンピュータ上で立体地図を作成する際の基礎データ。

2. 平成29年度予算概算要求の方針

今年度に引き続き、ユーザー・ニーズに対応しつつ、合計10機（基幹衛星4機、時間軸多様化衛星4機、データ中継衛星2機）の整備を目標とし、平成29年度については、以下のような方針の下、情報収集衛星の機能の拡充・強化を図る。

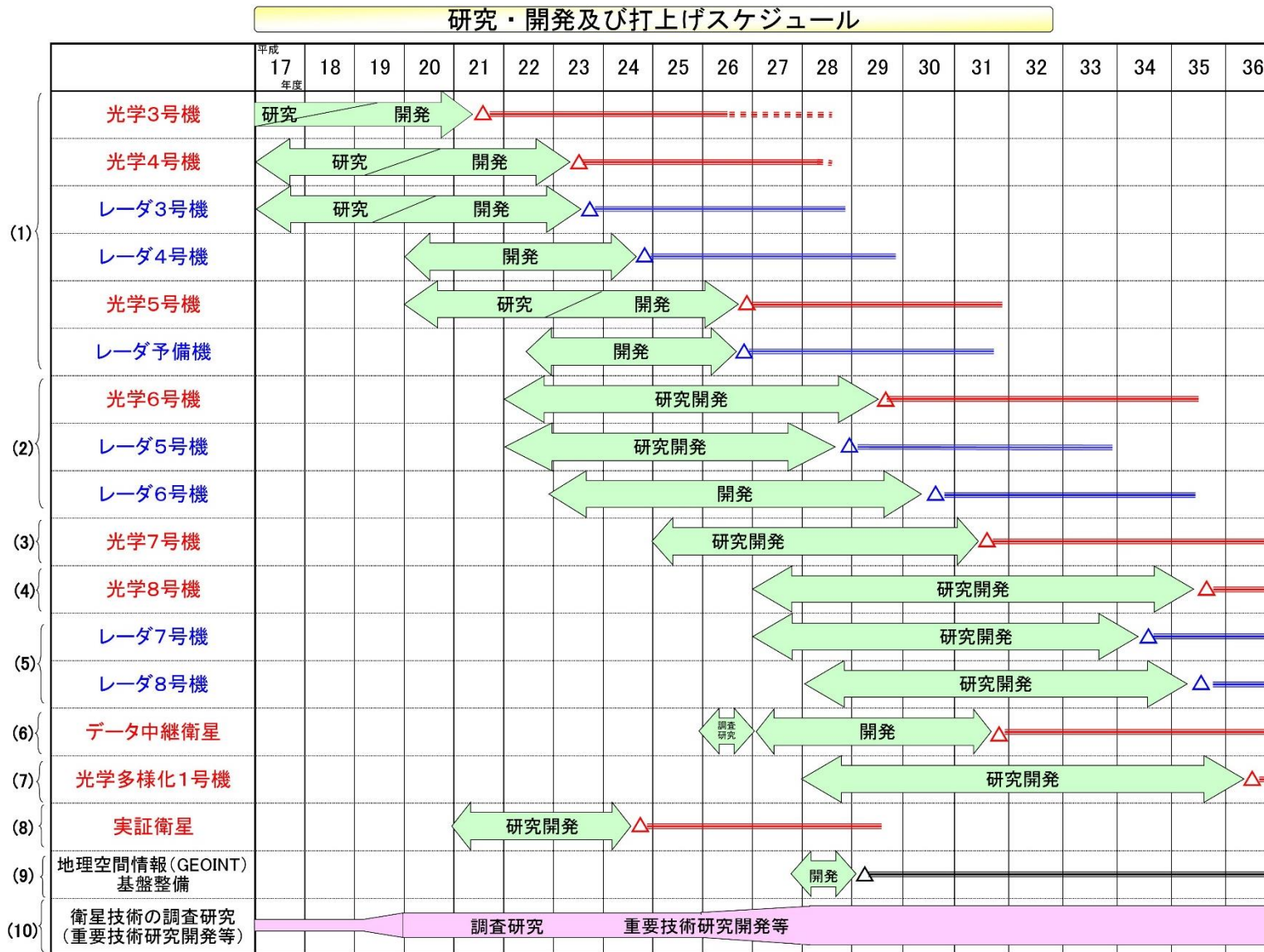
- (1) 光学8号機、レーダ7号機及びレーダ8号機の開発企業選定の結果を踏まえ、機数増による将来のコスト増を見据え、コスト削減に取り組みつつ、着実に開発を進める。
- (2) データ中継衛星に対応した第七期地上システムの構築を進め、データ量の増加に対応するとともに、必要な性能の向上を図る。
- (3) 画素結合自動処理機能や秘密文書の管理機能を導入し、各種情報を融合・処理した地理空間情報（GEOINT）の基盤整備を着実に進める。
- (4) 情報収集衛星システムの機能・性能の抜本的向上のため、重要技術の先行研究開発を進める。

3. 金額の内訳 (単位：億円)

経費区分	平成28年度 予算額 (A)	平成28年度 第二次補正 予算案	平成29年度概算要求額 (B)			対前年度 比較増減 (B-A)
				要望基礎額	要望額	
(1) 情報収集衛星の運用等	1 4 1	1 0	2 1 6	1 4 9	6 7	7 5
(2) 光学6号機、レーダ5、6号機 の開発	2 4 9	2 8	1 0 8	8 4	2 4	▲ 1 4 2
(3) 光学7号機の開発	6 6	9 1	9 5	8 5	1 0	2 9
(4) 光学8号機の開発	2 8	0	2 7	2 7	0	0
(5) レーダ7、8号機の開発	2 6	0	1 0 9	6 6	4 3	8 3
(6) データ中継衛星の開発	4 6	3 4	9 1	9 1	0	4 5
(7) 光学多様化1号機の開発	2	0	3	0	3	1
(8) 実証衛星の運用	8	0	1 1	1 1	0	3
(9) 地理空間情報 (GEOINT) 基盤整 備等	4	1 1	1 1	2	9	7
(10) 衛星技術の調査研究等	4 9	1	4 5	4 0	5	▲ 4
合 計	6 1 9	1 7 5	7 1 7	5 5 7	1 6 0	9 8

(注) 四捨五入のため、必ずしも合計が一致するわけではない。

4. 開発・運用スケジュール



△：打上げ・運用開始